

平成 29 年度 第 2 回学校協議会報告

日時：平成 30 年 1 月 27 日（土）13 時～15 時

会場：東大谷高等学校 多目的室 1

1. 校長挨拶

2. 協議会委員自己紹介（敬称略）

委員：東 京子氏 有本昌剛氏 至 孝也氏 出口雄一氏 中村俊一氏
西村治也氏 堀川 浩氏 松田昌利氏 （欠席）宮坂政宏氏

事務局：神代一徳（校長） 長尾文孝（教頭） 市居政彦（進路指導部長） 橋本壽志（指導部長）

井之元剛（校務部長） 東明美（教務部長） 出水謙一郎（入試対策部長） 志藤真裕（情報部長）

3. 議事

（1）平成 29 年度の現況報告

- ・「人間教育をする進学校」を学校目標としているが、進路希望実現にはまだ発展途上である。
- ・進学コース……薬剤師育成プログラムを先行実施し注目を集める
- ・国際コース……海外留学制度の充実、英検の実績向上
- ・特進コース……国公立 30 名関関同立 100 名を目標に来年度より「コース長」を任命し 3 ヶ年の継続指導を行う。学習支援ソフトを導入し学習の効率化を図る。
- ・本校の次年度入試では進学コース専願志願者が大幅に増加した。2020 年問題と薬剤師育成プログラムによる併設大阪大谷大学への注目があつたためか。

（2）学校教育自己診断および授業アンケートについて

- ・授業アンケートで 2 回分を振り返ると約 2/3 に改善が見られた。
- ・自己診断の「生徒の自ら学ぶ習慣」の評価が生徒保護者教員ともに低く、さらに学習に対する意識を向上させる必要あり
- ・自己診断の「悩みに対する対応」では教員の高評価に対して生徒保護者が低評価。教員側に受入の意識はあるものの生徒が相談に行っていない現状がある。
- ・教員と生徒保護者との乖離については乖離率が 10%以内なら意思疎通ができていく良い学校である。
- ・熱意と満足度の乖離については教員が教材を作って満足してしまっていないか、理解させ定着させることを目標に自分の授業を客観視することが必要である。
- ・自己診断はさらにコース別で分析すれば特徴が見えてくるのではないか。
- ・アンケート調査から、自律的主体的な学びをさらに推進していく必要あり。

（3）その他

- ・コースの特徴は出てきたので、数値目標の設定等により中身の充実を進めていくとよい。
- ・高大連携は良い。大学での内容を中学生にも示していけば、今後アピールポイントになる。
- ・特進コースではセンター試験受験者の増加が進学実績につながる。
- ・「人間教育」が今大事だ。日本人としての良さ、大切なものをしっかりと教え込む。
- ・生徒に多くの言葉を聞かせることで人間の基本づくりを進めるとよい。
- ・ICT 教育の充実と同時に、情報リテラシーの強化を図る。
- ・留学生と中学生の交流等、留学制度を地域に活かす取り組みを進めてはどうか。